



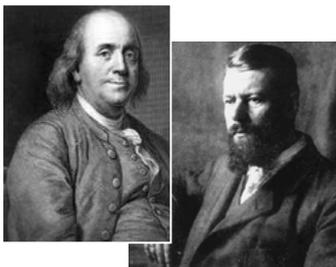
ヴェーバーとフランクリン

神と富と公共善

梅津順一 [著]

初期資本主義の人間像

◆四六判・456頁・定価4950円



梅津順一（うめつ・じゅんいち）
1947年生まれ。国際基督教大学卒業、東京大学大学院経済学研究科修士課程修了、博士課程単位取得満期退学。経済学博士（東京大学大学院）。青山学院院長、キリスト教学校教育同盟理事長などを歴任。著書『ピューリタン牧師バクスター』（教文館）、『ヴェーバーとピューリタニズム』『日本国を建てるもの』（新教出版社）他多数。専攻は、経済思想史。

『プロテスタントイデオロギイの倫理と資本主義の精神』で資本主義の精神の体現者とされたベンジャミン・フランクリン。だが『プロ倫』におけるヴェーバーの記述はそれほど多くはない。本書は、フランクリンの生涯と思想を徹底的に精査することによってヴェーバーの記述を検証する。フランクリンの宗教観・社会観を通して初期資本主義の担い手となった人間像を鮮明に浮かび上がらせると同時に、金が金を生み、格差がますます巨大化する今日の資本主義を批判的に乗り越える方途を探る。著者の長年にわたる研究の成果。

【目次より】

- 序——課題・ヴェーバーから見たフランクリン
 - 第一部 宗教信条
 - 第一章 ピューリタンの子
 - 第二章 理論から道徳的宗教へ
 - 第三章 フランクリンと教会
 - 第二部 「資本主義の精神」
 - 第四章 印刷所経営
 - 第五章 「資本主義の精神」
 - 第六章 フランクリンとアメリカ資本主義
 - 第三部 公共善
 - 第七章 社会企業家
 - 第八章 公共善
 - 第九章 フランクリンとベンシールヴェニアの政治
- 結——展望・フランクリンの「市民宗教」

聖書と農

10月12日発売

自然界の中の人の生き方を見直す

三浦永光 [著] ◆四六判・203頁・本体1650円

私たちの社会はこのままでよいのか。神と被造世界との関係に思いを馳せ、聖書を読み直し、内村鑑三やジョン・スコットら信仰の先達に学びたい。今日のグローバル資本主義社会の先に見出すべき、聖書が示す「農」の思想とは。



三浦永光（みうら・ながみつ）
1938年生まれ。東京大学教養学科
都立大学大学院で学ぶ。津田塾大学名誉
教授。著書は『国際関係の中の環境問題』
（編著）、「環境思想と社会」、「ジョン・ロッ
クとアメリカ先住民」ほか。

【目次より】

- 1 詩篇における農
- 2 農夫アモスの預言
- 3 イエスと農耕生活
- 4 ヨハネ福音書における農業
- 5 「物質的豊かさと恐怖」よ
りも「簡素な暮らしと
助け合い」

補論

- 1 内村鑑三と農業
- 1 内村鑑三の二宮尊徳論
- 2 田園と農民の繁栄を夢見
た内村鑑三とJ・W・R・
スコット

2022年

渡邊禎雄版画カレンダー



来年のカレンダーが出来
上がりました。1981
年の作品「キリストと子
供」です。「子供たちを
私のところに来させなさい」と語るキリストの眼
差しは、小さな者への慈
愛に満ちています。

◆注文はキリスト教書店
まで。 ◆定価550円

【話題の新刊】

遺跡が語る聖書の世界

長谷川修一 著（長谷川氏は立教大学教授）

抜群の面白さ！ 聖書の世界の人々はどんな家に住
み、何を着て、いかなる食生活を送っていたのか？
貨幣や暦は？ 聖書考古学
の第一人者が興味尽きない
テーマを解説。

◆四六判・定価2310円



戸田聡著

古代末期・東方キリスト教論集

キリスト教修道制の成立をめぐる諸研究や、「エジプト人マカリオス伝」や最初のシリア語キリスト教著作作家バルダイサンに関する研究と原典翻訳など、他に著者が企図するヴェーバー「宗教社会学論集」全訳をめぐる論考を含む27編を収録。

A5判・予価5500円

吉岡啓典著

教会政治の神学 改革派の教会政治原理とは

教会政治とは何か。それはなぜ神学として論じられなければならないのか。教会政治をめぐる神学史的な変遷を丹念にたどりつつ、教会を真剣に建て上げるための必須の神学的課題として、とりわけ改革派教会におけるその原理を追究する。

〔大森講座35〕四六判・予価1210円

ジャン・カルヴァン著／森川甫訳

共観福音書註解 下

マタイ・マルコ・ルカの三福音書を対観しながら記された註解書。福音書の「調和」を見出そうとする改革者の情熱。上巻の刊行から36年ぶりの邦訳完結となる。

A5判・予価8500円

● 9月に出た本と雑誌

ユダよ、帰れ

奥田知志著 コロナの時代に聖書を読む

ユダよ、帰れ



コロナ禍でいっそう格差と分断を深める日本社会に対して、聖書の証言に基づき福音を対置する。ポストコロナの世界を展望する説教15編。

◆ 四六判・定価1980円

アナキズムとキリスト教

ジャック・エリユール著／新教出版社編集部訳



定説を覆し両思想のラディカルな親近性を論証。鋭利な技術批判で知られるフランス・プロテスタント思想家の晩年の最重要著作。

◆ 四六判・定価2750円

ローマの信徒への手紙下巻

原口尚彰著

修辭学的II書簡論的分析の成果。邦人の手になる久々のローマ書本格注解完結。

◆ A5判・定価5060円

福音と世界

◆ 定価660円

10月号 身体再考

寄稿者：山内志朗、坪光生雄、佐藤紀子、大嶋果織、佐藤嘉幸、田島ハルコ、宇井志緒利、田崎英明、村澤真保呂、有住航、栗田隆子、金迅野、土井健司、好井裕明、辻学

●昨年大きな話題と共鳴を呼んだアメリカのブラック・ライヴズ・マター。その重要な争点となっていたのが、パレスチナとの連帯でした。人種や性、階級などの差異が相互に交わりながら成立していることを示す「交差性」の視点は、その連帯がどのような構造に切り込もうとしているのかを明らかにするでしょう。このたび、在日本韓国YMCAによってオンライン上で開催される連続ティーチン「交差するパレスチナ」新たなわたしたちのつながりを求めて」（後援：新教出版社）もまた、この視点に立ってパレスチナとの共闘を模索するものです。以下はそのスケジュールと発題者のお名前です。①11月5日（金）金城美幸さん、②11月19日（金）北川眞也さん、③12月3日（金）阿部小涼さん、④12月17日（金）保井啓志さん、⑤2022年1月12日（水）中村一成さん、⑥1月21日（金）太田昌国さん、⑦2月4日（金）役重善洋さん、⑧2月16日（水）早尾貴紀さん。見ての通り、「交差するパレスチナ」というテーマに取り組むため、多様な方々に発題をお願いしました。パレスチナを分断と隔絶に追い込む力学を乗り越える「新たなわたしたち」の生成にむけて、ともに学ぶ機会となればと願っています。申込方法などの詳細は在日本韓

国YMCAのホームページに掲載されていますので、ぜひご参加ください。（堀）

●安酸敏眞先生の最新刊『つむじ風に巻き上げられて』（世界文化社）は思想研究者また教育者としてのご自身の来し方を様々な角度から長短の文章に綴った滋味溢れるエッセイ集ですが、その中でレックスの次のような言葉が紹介されています。「各人は自分にとって真理と考えることを語ろう。そして真理そのものは神に委ねよう！」この言葉から少なくとも二つのことが読み取れると思えます。一つは、人は真理そのものを所有することはできないということ、もう一つは、にもかかわらず人は真理を追究し、それを他者に伝えねばならないということとです。真理は探求者にとって無限遠の目標であり、それを決定的に掴んだなどとは決して言い得ない。同時に、そこに接近しようとする個々の努力は、どんなささやかな成果であれ真理探求者の共同体にとって価値を持つもの、いわば公的財な財産です。この共同体は一学会に留まらず、理念としては全人類に拡大されるべきものでしょう。真理などという言葉を安易に語ることでできない時代ですが、ドイツ啓蒙の一思想家の言葉に、出版に携わる者として感じるものがあります。（小林）

福音と世界

2021年
11

A5判・80頁・定価660円・送料70円
年間予約購読料（送料共）8760円

特集・黒人神学との再会

リングシャウトからサイファー人

——路上の運動としてのヒップホップ——山下壮起

束縛とヨハルの狭間で——黒人プロレタリアが生んだ「不可視の教会」——マニエル・ヤン

第一世代黒人神学者の断片
——ウィルモア・ロバート・ジョーンズ——榎本空

黒人自由闘争と白人教会——「閉鎖社会」——阿部啓

ポスト・オバマ時代の米国における
公共神学、ポヒクリズム、人種主義
——ワーマニストの呼びかけ——リンダ・E・トマス
（翻訳・解説：安田真由子）

【好評連載】

- ◆「アジアの草の根 平和の証し人」3 …… 宇井志緒利
- ◆「間隙を思考する 非同時代性のために」8 …… 田崎英明
- ◆「古代イスラエル文学史序説」9 …… 勝村弘也
- ◆「豊性のエゴジシあるいはアマミテリア」10 村澤真保呂
- ◆「福音のフラグメント」11 …… 有住航
- ◆「Say a Little Prayer」開かれる世界」20 …… 栗田隆子
- ◆「今を生きるみこことば」20 …… 金迅野
- ◆「新約釈義 第三メモテ書」20 …… 辻学
- ◆「くまさんのシネマめぐり」21 …… 好井裕明
- ◆「教父学入門」26 …… 土井健司